いざという時の応急処置

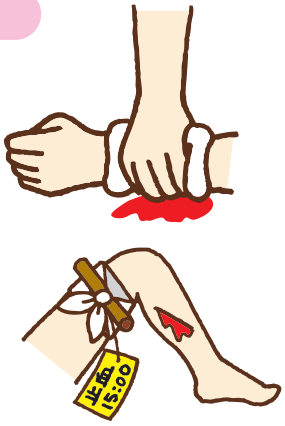
Language

応急処置　知っておきたい応急手当のポイント

災害発生時の混乱状態では、救急車はすぐにはやってきません。専門的な治療はともかく、初期段階の応急手当は、負傷者のそばにいる人が行わなければならないのです。大切な人の生命を救うことができるよう、応急手当の方法を身に付けておきましょう。

出血がひどいときは

きれいなガーゼやハンカチなどを傷口に当て、手で圧迫するなど応急手当をし、急いで医療機関へ。
（感染症予防のため、ビニール袋に手を入れて押さえるなど、血液に直接触れないように注意する。）



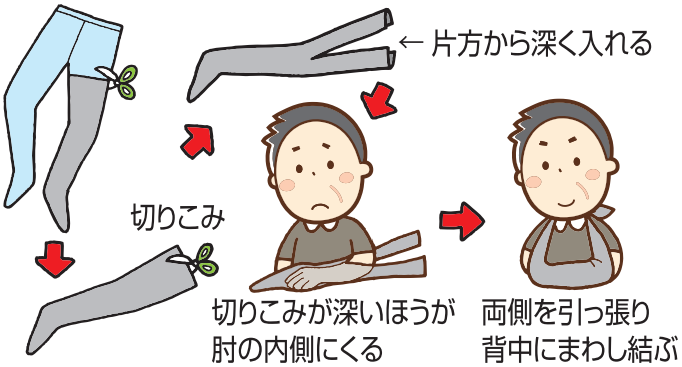
やけどをしたら

①急いで水道水などの流水で冷やす。
②衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさず、そのまま冷やす。水ぶくれはつぶさない。
③冷やした後は清潔なガーゼなどで軽く包み、急いで医療機関へ。

骨折の疑いがあったら

①患部を動かさないようにして手当をする。
②患部に副木（なければ板やダンボール、傘、雑誌などでもよい）を当てて固定し、早めに医療機関へ。

ストッキングを使った応急処置



意識がないときは119番!

こんなときは

- **頭を打ったとき**
  患部はもちろん体も動かさないようにします。
- **打撲・打ち身のとき**
  患部を固定して冷やします。
- **悪寒や震えを伴う高熱のとき**
  頭部を冷やし、体は保温します。
- **悪寒や震えを伴わない高熱のとき**
  頭部・脇の下・太ももを冷やし、体を過度に温めないようにします。
- **熱中症を起こしたとき**
  日陰に移動し、衣服をゆるめ、水分を補給します。

救命講習を受講しよう

救急車が119番通報を受けてから現場に到着するまで、全国平均で**約8分**かかります。**この8分間が、傷病者の生命を大きく左右するのです。**
かけがえのない命を救うためにも、人工呼吸や胸骨圧迫及び**AED（自動体外式除細動器）**などの救命技術を身に付けましょう。
救命講習は、消防署で実施しています。みんなで積極的に受講し、応急手当の方法を正しく覚えましょう。